

NHK 番組政策担当者殿

1月30日のニュース7の STAP 細胞を紹介する放送やニュースのネット配信において、「iPS 細胞が遺伝子を操作して作るのに対して、STAP 細胞は刺激を与えるだけで作ることができます。iPS 細胞より短期間に効率的に作り出せるほか、癌化がする恐れが低いと見られるなどの特徴が有り・・・」と放送されました。iPS 細胞は発癌関連遺伝子である c-Myc を使用して作られているため癌化しやすいとされていますが、上記の説明では、導入する遺伝子に関係なく、「遺伝子を操作して作る」ことで「癌化する可能性がある」と、一般論として受け取られることを危惧します。

NHK の放送においては、「遺伝子操作＝癌化する可能性がある」と誤解されないことと、iPS 細胞を正確に説明するために、例えば「iPS 細胞は発癌関連遺伝子を導入していることに比べ STAP 細胞は・・・」ような説明をお願いする次第です。